

授業科目                      音声学

【担当教員名】 亀田和夫	対象学年	2	対象学科	言語
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

【＜一般目標：G I O＞】

私たちは毎日音声でコミュニケーションし、何の支障もない。しかし私たちはその音声の実態をを本当に知っているだろうか？  
 音声は発声器官である喉頭と声道（咽頭、口腔、鼻腔）の構音によって作られるが、これらの器官の構造と機能が理解されていなければならない。  
 各単音について、その発音方法を知る必要があるし、発音した場合の音響学的特徴にも十分な認識が必要である。  
 更に音声学独特の用語（音節、モーラ、音素、アクセントなど）の知識も要求される。音声学はそのような総合科学である。

＜行動目標：S B O＞

1. 喉頭、咽頭、口腔、鼻腔の構造と機能について、既習の知識を整理し、更に完全なものとする。
2. 母音の発音方法と音響的性質を知る。
3. 子音についてその構音様式と構音位置を理解し、音響的性質を知る。
4. 音節とモーラについて理解する。
5. 音素とは何かを確実に理解する。その脳機構についても考える。
6. アクセント、特に日本語のアクセントについて理解を深める。
7. アクセント以外の韻律的特徴について知る。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	喉頭について既習の知識を整理して、さらに知識を完全にする。	1	講義、A V機器による展示
2	咽頭、口腔、鼻腔について既習の知識を整理して、更に知識を完全にする。	1	講義、A V機器による展示
3	母音の性質と分類、音響的特徴を理解する。	2	講義、A V機器による展示
4	子音の性質と分類、音響的特徴を理解する（1）	2	講義、A V機器による展示
5	子音の性質と分類、音響的特徴を理解する（2）	3	講義、A V機器による展示
6	日本語はモーラの言語だと言われる。音節とモーラについて仔細に検討する。	4	講義、A V機器による展示
7	音素とは何か、理解を確実にする。	5	講義、A V機器による展示
8	日本語のアクセントの英語などと違う特質を理解する。モーラとアクセントの型との関係も研究	6	講義、A V機器による展示
9	イントネーションについて考察する。	7	講義、A V機器による展示
10	リズムについて考え、英語の詩と日本語の詩の特質についても考える。	7	講義、A V機器による展示
11	音声の周波数分析について考える。	2	講義、A V機器による展示
12	音声のソナグラムによる観察を行なう	3	講義、A V機器による展示
13	音声の脳による認識について考察する。	5	講義、A V機器による展示
14	音声の I P A による表示とローマ字表示について理解を深める。	3	講義、A V機器による展示

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書 (必ず購入する書籍)	日本語音声学入門	齋藤純男	三省堂	1997年 2000円
参考書	岩波講座・言語の科学2：音声	白井克彦ほか	岩波書店	1998年 3800円
	改訂音声学入門	小泉保	大学書林	2003年 3200円+税
その他の資料				

【評価方法】 平常の学習状況と定期試験の結果を総合評価する	【履修上の留意点】 音声学は言語学、医学、生物学、物理学などの総合科学であることに留意する。
----------------------------------	---